www.ficec.jp

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

# ハローフレンズ

ファイセック FICEC
発行
ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2010年 6月号（隔月刊） 第109号

## 総会およびシンポジウムを開催

ふじみの国際交流センターでは、2010年6月20日、年1回の総会および「多文化共生」をテーマとしたシンポジウムを開催いたします。総会は、センターの1年間の活動内容を報告し、これからの1年間の活動の方向を決めるものです。議決への参加は正会員に限られますが、傍聴はどなたでも可能です。また、シンポジウムは「地域の国際化、いま何が必要か」と題して、現在、地域、全国で起きている多文化共生にかかわる課題等について、意見交換をしたいと思います。関心のある方は、総会、シンポジウムいずれでも、ぜひご参加ください。スタッフ一同、お待ちしております。

### ふじみの国際交流センター 総　会

6月20日（日）午前10時～

●議題
① 2009年度事業報告、収支決算報告
② 2010年度事業計画案、収支予算案
③理事・監事の選任
　これらの議題について理事会より提案し、質疑応答を行って議決します。

### シンポジウム 地域の国際化、いま何が必要か

6月20日（日）午前11時～
（総会に引き続き開催いたします）

●テーマ
外国籍の子どもたちへの日本語教育
　増加する外国籍の子どもたち
　その日本語指導の必要性と方法を考える

（詳細は、本誌裏表紙をご覧ください）

### 場所：ふじみ野市西公民館

東武東上線上福岡駅西口より徒歩3分

主催・問い合わせ先
ふじみの国際交流センター
〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
Tel：049-256-4290

# 全国、埼玉、そして地域でも増加する外国籍市民
# 子どもたちへの教育をどうするかが大きな課題

## ふじみ野地区でも増加する外国籍市民

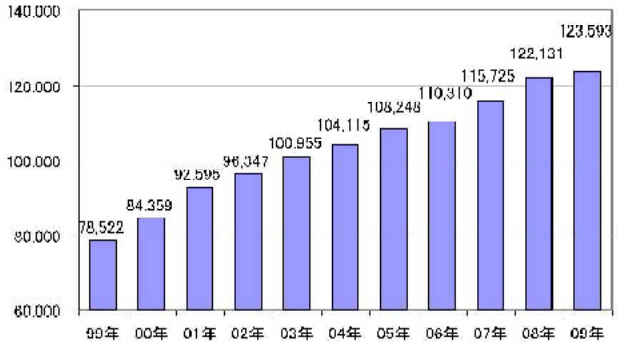
埼玉県がそのホームページで公表したデータによると、2009年末における埼玉県内の外国人登録者数（速報値）は12万3,593人（グラフ①）。前年が12万2,131人だったので、1.2%の増加となった。埼玉県の2010年1月1日現在の推計人口が717万4,179人なので、人口の約1.7%が外国籍市民ということになる。

一方、こうしたデータをふじみの国際交流センター（FICEC）が主な活動範囲としている埼玉県内二市一町（富士見市、ふじみ野市、三芳町）について見てみると、2009年末の外国人登録者数（速報値）は3,818人で、前年比9.3%の増加（グラフ②）。埼玉県全体よりもかなり大きな増加率となっている。同じように2010年1月1日現在の推計人口（25万475人）中の割合を算出してみると、約1.5%となっている。

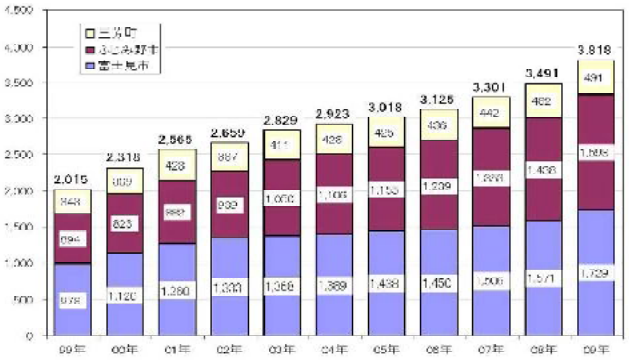
こうした外国籍市民の増加は、全国的に起きていること。全国の外国人登録者数は、この記事を執筆している2010年5月の時点では2008年のデータまでしか公表されていないが、2008年末で221万7,000人。グラフ③でみるとおり、この10年間増加の一途をたどっており、「過去最高」を更新し続けているところだ。

グラフ④は、こうした国全体、埼玉県内、二市一町の外国人登録者数の増加率を見たもの。それぞれ、1999年の登録者数を100としてその後の増加をみてみると、いずれも右肩上がりで伸びている。とくに二市一町の増加率が高く、この10年間で89%の増加と、ほとんど2倍近い外国籍市民が日常的に暮らすようになっている。

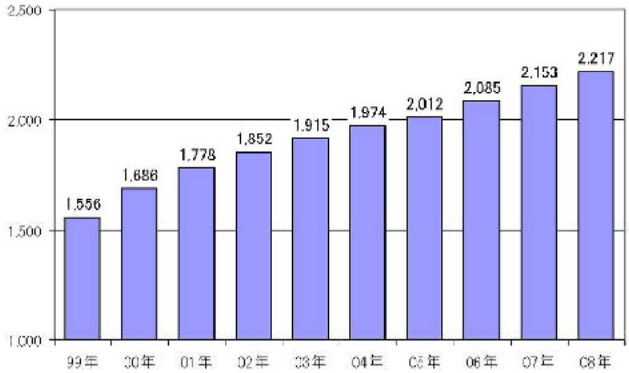
グラフ①　埼玉県の外国人登録者数推移



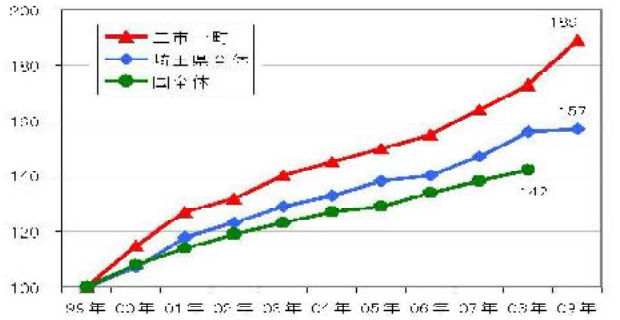

グラフ②　二市一町（富士見市、ふじみ野市、三芳町）の外国人登録者数推移




グラフ③　外国人登録者数の推移（単位千人）




グラフ④　1999年を100とした場合の外国人登録者数増加率（%）



# 「教育」に関する相談が大きな割合

ふじみの国際交流センター（FICEC）は、地域に住む外国人に同じ地域住民として生活情報提供、生活相談などを行っている団体だが、グラフ⑤のように、FICECが受ける「生活相談件数」は2004年度以降、右肩上がりで増加しているところだ。

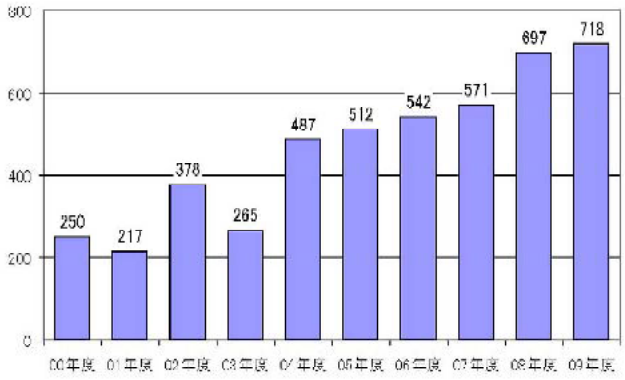
さらに、その相談件数を内容別に分けたのがグラフ⑥。項目として、例年もっとも多いのが「教育」に関する相談となっている。

それに関連して掲載したグラフ⑦は、近年の日本における結婚の状況を示したもの。例年、外国人と日本人との国際結婚が3～4万件に達しているが、ことに多いのが「夫・日本人、妻・外国人」での国際結婚で、日本人の結婚総数の約4～5%を占めている。このケースでは、女性が再婚ですでに子がいる場合には、結婚と同時に母国から子を呼び寄せて、ともに暮らすことになる。FICECへの生活相談も、学校との連絡、日本語や学習に関する事柄など、教育に関する相談が多くの割合を占めている。

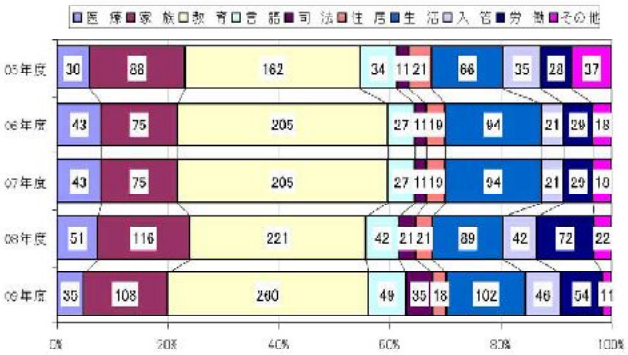
グラフ⑧は、文部科学省で毎年行っている「日本語指導が必要な外国籍児童生徒に関する実態調査」のデータだが、すでに述べたような外国人登録者数の増加、国際結婚の状況を反映するかのように、日本語指導を必要とする子どもたちが増加している。

文部科学省では、昨年12月から有識者等による「定住外国人の子どもの教育等に関する政策懇談会」を開催し、今年5月19日に、その検討を踏まえた今後の「政策のポイント」を公表した。それによると、こうした外国籍の子どもたちに対する「日本語指導体制の整備」「進学や就職に向けた支援の充実」などをポイントとして挙げている。具体策はまだこれからだが、われわれ市民レベルでも、こうした課題について具体的な方法を考えていく必要がある。（文・内藤忍）

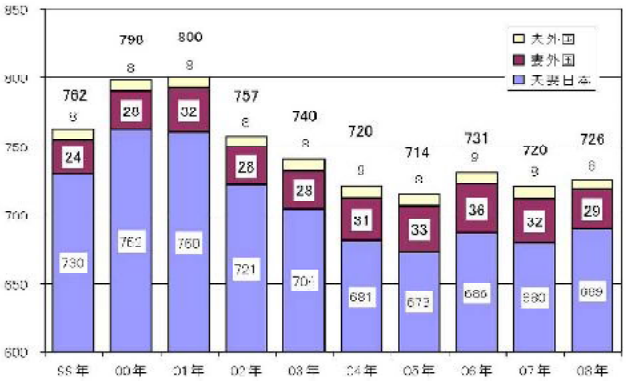
グラフ⑤　外国籍市民からの生活相談件数推移（FICEC）



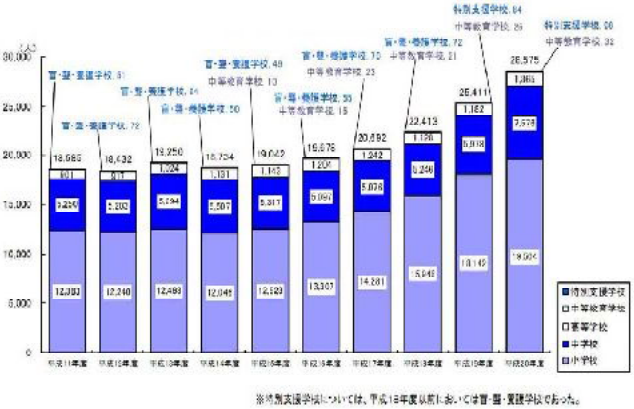

グラフ⑥　FICECへの生活相談の内容推移




グラフ⑦　夫妻の国籍別にみた婚姻件数推移（単位千件）




グラフ⑧　日本語指導が必要な外国籍児童生徒数




※特別支援学校については、平成18年度以前においては盲・聾・養護学校であった。

# フィリピンの人たちから学んだこと

## 深刻な問題を抱えながらも「いまは幸せだよ」と前向きに生きる人々

神田 歩

Magandang hapon！（こんにちは！）ハローフレンズ２月号で「なぜ私がフィリピンを訪れるのか」について簡単に書かせていただきましたが、そのフィリピンでの３週間のワークキャンプから戻ってきましたので、ここで報告させていただきます。

センターでインターンとして過ごした9ヶ月間、様々な国の方たちと関わる中でも「なぜ？」と疑問を持つことが多かったのがフィリピンのことでした。フィリピンについてもっと知りたいと思い、学生最後の春休みを利用して、ワークキャンプに参加しました。ここで、私は自分自身の目標を2つ設定し、3週間を過ごしました。ひとつめは、まずは現地の人とたくさん交流をし「フィリピンの人たちのことを知る」こと。2つめは、NGO（NPO）文化がアメリカに次いで根付き発展していると言われる、フィリピンのNGO団体に実際に参加し「日本との違いを見る」こと。実際にフィリピンへ行かなければ経験できないことを全部しようと「don’t be shy（積極的）」の精神でフィリピン人の中に飛び込んできました。

## 3週間、フィリピンのNGOでの活動などに参加

フィリピンでの3週間は、全寮制の盲ろう学校や現地の大学生の家庭にホームステイをさせてもらいながら、ストリートチルドレンの支援をしている現地の

NGOの大学生たちと誕生会

施設の修繕も自分たちで行う

NGOで活動をし、そこに関わる大学生たちと意見交換会やワークショップをしたり、また雨季になると崩れてしまうという貧困地域の公共階段の修復作業を、現地の若者たちとしてきました。

メインの活動である「ストリートチルドレンの支援」というのは、私が滞在していたオロンガポシティ（首都マニラから車で5時間ほど走ったところにある地方都市）で、そこのパブリックマーケットで飴玉やビニール袋を売ったり、夜の歓楽街で働いている子どもたちを対象にした週末の青空教室に一緒に混ぜてもらい、サポートスタッフとして活動させてもらっていました。この子どもたちの多くは、両親と暮らしているのですが、学校へ行かせるためのお金がなかったり、学校へ通っていても午後から仕事をさせるなど、日本の多くの子どもたちとは異なった環境にいることがよく分かりました。

多くのフィリピン人は英語が話せると思われていますが、学校へ通えない子どもたちはもちろん英語を話すことはできず、また学校へ通っていても文法はメチャクチャだったり、スペルは独自の綴りだったりと英語をネイティブのように話す人は、たいへん少ないのが行ってみて分かったことです。

英語が得意ではなく、また現地の人たちが話しているフィリピノ語を理解できない私は、ホームステイ中、家族とのコミュニケーションが上手に図れず、不

子どもたちに勉強を教える

安に思ったこともありましたが、身振りや手振り、またお互いの言語を学ぼうとする姿勢で最後には辞書をいっさい使わずに会話ができるようになりました。そして強い家族の絆に加えてもらったことが今回のワークキャンプでいちばんうれしい出来事です。

## 日本に行って働いて家族を支える

3週間、フィリピンの家庭で生活する中で見えてきたものがあります。それはひとつのコミュニティの中でも世帯収入の格差があり、助け合い精神の強い国民性からか、昔の古き良き日本のように地域の人々がみんなで助け合って生活していながらも、ほとんどがその日その日を生きるという刹那的な生活を送っていることです。もちろん、すべてがそうであるわけではないと思いますが、私が仲良くなった現地の大学生たちも、多くが大学だけは卒業したいけど、その後のことはよく分からないと言っていたこと、日本人の多くの学生とは違う新しい発見でした。またお母さんが蒸発してしまった、お父さんがアルコール中毒で暴力を振るうなど、家庭内の問題を話す学生も多く、そんな深刻な問題を抱えながらも「でも私たちは今幸せに過ごせているから大丈夫よ」と、前向きに受け入れているのがとても印象的でした。

コミュニティの中での生活水準の格差、その一番の理由は一家の大黒柱に仕事があるかないかということです。フィリピンは日本以上に若者男性の失業者が多いという印象を受けたのですが、そんな中、家族の誰かが海外に出稼ぎに出ている場合、そのような家にはシャワーがついていたり炊飯器を持っていたりと、物価の違いから少し贅沢な暮らしができているようでした。日本に行けばお金持ちになれると「ジャパニーズドリーム」を持っている人はまだ多くいて、家族の誰かが日本で働いて仕送りをすることは、その家族の誇りになるようでした。そのことからも、日本で生活しているフィリピン人女性が、日本での生活費を切り詰めて母国に残してきた家族に仕送りをすることは、家族を支えるための方法であることがよく分かりました。

## 快く受け入れてくれるフィリピンをもっと知りたい

私は自分では、あまり偏見を持たないタイプの人間だと思っていました。しかし、心のどこかで開発途上国からやってきた人たちを「支援してあげている」という気持ちが、はじめはあったのだと思います。だからフィリピンでの3週間を含め、センターでの9ヶ月間の活動で出会った人から大きな刺激を受け、今までの自身の生き方を変えなくてはいけないとまで思えるようになりました。そんな自分を見つけた時、大きな驚きがあったのかもしれません。現地の大学生と一緒にワークショップをしていた時、お互いの国の抱える問題を劇にして発表しようということになり、私たちは英語劇をしました。フィリピン人の学生メンバーは貧困やドラッグの連鎖から生まれる新しい命というタイトルで発表をしたのですが、日本人に自分たちが抱える問題を真剣に伝えようとする姿勢に感銘を受け、同じ世代を生きる者として少し恥ずかしくも思ってしまいました。

私自身がセンターに関わり、またこのフィリピンでの3週間で大きく変わったと強く感じること、それは人に手を差し伸べる勇気を持てるようになったことです。それまで、何かと自身の利益を優先して考えがちだった自分が、初めて出会った人でも何かできることなら手を貸したいと、自然に思うことができるようになりました。

「フィリピンを知る」という目標でしたが、毎日一緒に生活していても3週間では簡単に理解することができず、魅力的な彼らのことをもっともっと知りたいと思いました。「Don’t be shy」で飛び込めば誰でも「Welcome！」と受け入れてくれるフィリピン、今度はもっと長期間で訪れてみたいと思っています。

# 「日本人の配偶者等」結婚すれば日本にいられる？！

藤林 美穂

「日本人の配偶者等」、略して「日配（ニッパイ、ニチハイ）」の資格は、日本にいるために一番お手軽にとれる（？！）ビザ、と外国人には考えられています。就労を目的として在留資格をとる場合、それなりの学歴や職歴（を証明すること）が必要になりますが、結婚はそれまでの経歴は問わず婚姻届を出せば済む、というわけです。

また、「日配」の場合、永住権をとるのも他の在留資格に比べて格段にスピーディです。永住許可は、通常は10年間日本に住んでいないと申請できませんが、日配なら日本に来て最短1年でとれる場合もあります（ただし海外生活を含めて夫婦の同居歴が3年以上あり、3年のビザ期間がとれていることが条件）。中には、永住権をとりたくて結婚したのか、と思いたくなるような人もいます。

しかし、たしかに結婚するのは簡単かも知れませんが、結婚によってできる人間関係はビザのあるなしよりもずっと面倒な問題を引き起こすことがあります。実際に私が受ける相談の中でも、結婚をめぐる人間関係がトラブルの原因になっているものが圧倒的に多くなっています。たとえば夫からの暴力、離婚、そして嫁姑問題……。中には、一昔前の日本の「ヨメ」の立場をほうふつとさせるような姑のイジメにあっている人もいます。さらに今後は、高齢の夫の介護（日本人の夫が外国人妻より20歳以上年上、というケースがかなり多い）や相続が問題になってくることも予想されます。

「日配」資格で日本に暮らす場合の問題は、結婚の破綻が日本での在留資格を失うことに直結してしまうことです。プライベートな夫婦関係が、日本に在留するための唯一の法的基盤となっているわけで、ある意味ではすべては日本人夫（妻）の気分次第でどうにでもなってしまう可能性があります。極端な場合、DVの一種ですが、日本人配偶者が、「入管に通報してやる」などと言って外国人配偶者を脅す場合すらあります（ただし離婚しても、日本人の子を養育している、などの理由が入管に認められれば「定住者」の資格に変更して日本に住み続けることができます）。たとえ夫から暴力を受けていても、離婚すればそれまでの日本での生活をすべて捨てて本国に帰るしか選択肢がない、となれば少々のことは我慢しよう、だからこそ一日も早く夫（妻）に左右されない永住資格をとりたい、と考えるのは当然なのかもしれません。

●筆者紹介

10年あまりNGOで働いた後、フィリピン人支援グループでボランティアしたり写真の勉強をしたりしつつ昨年行政書士として開業、これから外国人のビザ取得などの仕事を中心にやっていきたいと思っています。どうぞよろしく。

ライフ行政書士事務所

http://officelife.sakura.ne.jp/

http://shigotonichiroku.sblo.jp/

## センターの活動をご支援ください
## 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員
正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。
年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員
賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。
年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

## ご寄付をいただいた方々
ご支援ありがとうございます

●2008年4月～（50音順・敬称略）
(株)オムテック　尾高昇　太田原裕　小原富明　葛西敦子　加藤久美子　金子忠弘　金子康子　国際ソロプチミスト埼玉　後藤泰博　駒形一夫　斉藤彩子　宍戸フミエ　菅山修二　鈴木譲二　立麻医院　曹圻　寺村仁　中嶋恵津子　西山正浩　萩原千代子　東入間地区遊技業防犯協力会　(株)マイカル大井サティ　馮雪蘭　百瀬滉　柳原国江　(有)矢野住研　吉田純一　ワン・シーウェン

## たくさんのご寄付に御礼申し上げます

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年以上になります。その間、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言っていいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後もご支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター（FICEC）一同

## サービス料金表

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

| 種別 | 料金 | 対象 |
|---|---|---|
| 印刷機 | マスター（製版代）<br>１枚１００円<br>印刷代１枚１円 | 市民団体<br>個人 |
| コピー機 | １枚１０円 | |
| 製本機 | Ａ４判１冊５０円 | |
| 折り機 | 無料 | |

| 種別 | 内容 | | 料金 | |
|---|---|---|---|---|
| 講師派遣 | 国際理解教育 | | 3,000円＋交通費 | |
| | 外国料理教室 | | 5,000円（材料費別途） | |
| | 語学教室 | | 内容・予算に応じて相談 | |
| 企画・運営 | 国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等 | | | |
| 編集・出版<br>ホームページ | 多言語による情報誌・ガイドブック、ホームページの制作 | | | |
| | 日本語によるチラシデザイン（A4判） | | １枚5,000円 | |
| 翻訳 | 英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、ロシア語、ベトナム語 | 婚姻関係、ビザ申請、履歴書 | A4判1頁、40字・30行 | 1枚1,000円 |
| | | その他の文書 | A4判1頁、40字・20行 | 1枚3,000円より |
| 通訳 | 英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、ロシア語、ベトナム語、シンハラ語 | | 半日5,000円＋交通費 | |


特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター
〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
Tel：049-256-4290　Fax：049-256-4291
生活相談専用電話:049-269-6450


## ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流･手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。

ふじみの国際交流センター
シンポジウム

# 『地域の国際化、いま何が必要か』

テーマ

# 外国籍の子どもたちへの日本語教育

増加する外国籍の子どもたち
その日本語指導の必要性と方法を考える

## パネルディスカッション

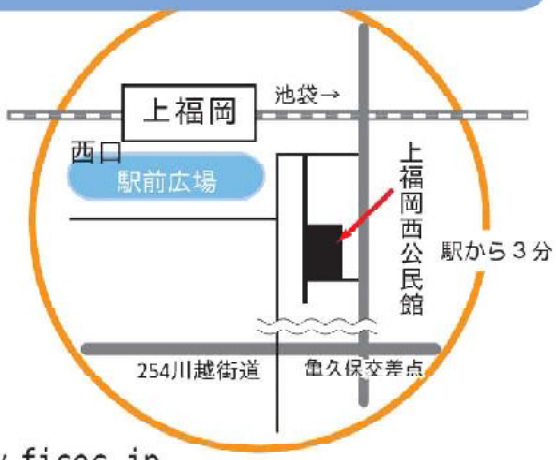
- 有識者、日本語ボランティア、外国籍市民などパネラーが問題提起。その発言などをもとに、会場参加者を交えて討論を行います。
- 議論内容は報告書にまとめて公表します。

いま、全国で外国人登録者が増加する中、小中学校に入学する外国籍児童・生徒も増加しています。私たちの住む埼玉県、ふじみ野地区（富士見市、ふじみ野市、三芳町）でも例外ではなく、そうした児童・生徒への日本語指導が必要です。
文部科学省でも、つい最近、「定住外国人の子どもの教育等に関する政策のポイント」を発表しましたが、そうした施策も踏まえて、市民が何をできるのか、行政とどう協働していくことが必要なのかを考えたいと思います。

**6月20日 日**
**11：00〜13：00**

**参加自由です！**

場所／ふじみ野市西公民館




主催／
特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター

埼玉県ふじみ野市上福岡５-４-２５
TEL:049-256-4290　FAX:049-256-4291　URL:www.ficec.jp